

羅針盤



2018年9月21日(金) 第59号

＝ 9月のことば ＝

目的地は一夜では変えられないが、進む方向は一夜で変えられる。
(ジム・ローン (1930-2009)アメリカの作家)

何のために、人は学ぶのか。学ばねばならないのか。

2 学年の前期末考査が終わった。ホッとしている人もいるだろうが、ホッとしていていいのだろうか。詰め込んだ“記憶”(知識ではなく)を解答用紙に吐き出しただけのような答案も多く見受けられる。理解もせずに詰め込んだので、いわば未消化状態のため、およそ考えられないような間違い方にも出くわす。それで良いのか。

人はなぜ学ぶのか、学ばねばならないのか。様々な意見があり、説明がされてきた。大学等への進学のために学ばねばならないのではない、という意見には基本的に賛成だが、なりたい自分になるための通過点に受験があるのも、また事実である。ならば、今のままで良いのか。

北海道を巨大地震が襲った。またしてもデマ情報が多くの人々の不安を増幅し、混乱を生んだ。“「厚真に居る自衛隊の方からの今来た情報です。地響きが鳴ってるそうなので、大きい地震が来る可能性が高いようです。推定時刻5～6時間後との事です!!」。苫小牧市危機管理室には地震発生から2日が過ぎた8日夕、無料対話アプリ「LINE」などの投稿を見た市民から「本当に大地震が来るのか」「避難すべきか」などの問い合わせが相次いだ。2時間ほど電話が鳴りやまないほど対応に追われた”と報道されていた。口ぐせのように「フェイク・ニュース」と語る人物がいるが、fakeなのかfactなのか、truthはどこにあるのかを見抜く力も、学びによって獲得されなければならないものだろう。北海道の例でも、市に問い合わせが殺到したのは慌てて行動する前にfactやtruthを確認する行動だったのだろうから、批判には当たらないだろう。批判されるべきは、非常時にデマを流して喜んでいる大馬鹿者であり、鵜呑みにして拡散させた者たちだ。

君たちの学びは大丈夫か。真理を求める学びをしているか。自らに問うて欲しい。

9月	曜日	行 事 等	週末課題等の予定	朝学習
22日	土		国	
23日	日			
24日	月	「秋分の日」		
25日	火		国提出	英語
26日	水			国語
27日	木	校内体育大会		*
28日	金	校内体育大会、前期終業式		*
29日	土		国・数・英	
30日	日			
10月1日	月	衣替え、登校指導、6校時授業日	国・英提出	数学
2日	火		数Ⅱ提出	英語
3日	水	「市政への提言」分科会発表会		国語
4日	木		数B提出	総合
5日	金	英検2級準会場実施(申込者)		英語
6日	土	夢ナビ・ライブin仙台(申込者)	国・数・英	
7日	日			
8日	月			
9日	火		国・数Ⅱ・英提出	英語

☆いよいよ校内体育大会。クラスTシャツが届いたクラスもある一方、Tシャツ制作業者が北海道にあり、業者を変えなければなかったクラスもあるようです。来月には修学旅行も控えている。くれぐれもケガの無いように。

☆「市政への提言」の取り組みも、いよいよ大詰め。立派な、そして高校生らしい新鮮な発表を期待しています。

この夏の経験から (3)

「インターハイに出場して」

3組 酒井 リオナ

私はこの夏、8月3日からの東海総体に参加してきました。県大会優勝から約2か月間、先輩も自分も、本番に向けて本気で練習しました。私は的中の波が激しい方でしたが、インハイ前は的中というよりは、どう本番にピークをもっていけるかだけを考えました。実際、静岡についてから3日間の練習でも、ずっと調子が良かったわけではなく、分析→調整→分析をひたすら繰り返していました。全国というとても大きな舞台でしたが、自分の射の内容だけに集中し、セルフイメージを常に持ち続けることができたので、本番でも極度の緊張を避けることができました。結果としては、とても悔しさが残りましたが、チームにとっては集大成の一立(ひとたち)



だったと思います。また、本番前に自分の中に必ず起こる不安や緊張との向き合い方も学ぶことができました。そういったマイナスな感情もきちんと受け止めて、自分はなぜ緊張しているのか、など自分を客観視することができれば、自然と感情はコントロールされていくものだ実感しました。今回のインハイで見た精度の高い射や、メンタル面で学習したことが、今後のチームに活かされるように、部員と情報を共有して全員で強くなるのが今の目標です。

「キャリプロに参加して」

3組 増子 綾音

8月13~16日の4日間、私は県内の高校2年生を対象とした『TOMODACHI 女子高校生キャリアメンタリングプログラム in 福島 2018(以下「キャリプロ」)』に参加してきました。このプログラムでは、4つのSTEPを半年間計10日間でこなすもので、今回はそのSTEP1で、半年間一緒に活動するグループのメンバーとメンターさん(大学生)との出会いやヤングアメリカンズによるワークショップなど、内容が盛りだくさんでした。グループのメンバーは、それぞれ住んでいる場所はみんな離れており、このキャリプロがなかったらきっと出会うことのないであろう人たちですが、様々な活動を通していろいろなことを共有しあい、絆を深めることができ、今すぐ会いたいくらい素敵な仲間に出会うことができました。ワークショップでは、最終日のショーに向け3日間、1日中踊って歌っての生活、文化部の私は体力の限界を感じました。しかし、毎日多くの外国人や仲間と共に1つの作品を創り上げていくのは本当に楽しく、ショーの終了直後には感動して涙が出てきました。普段、私はバイオリンと一緒に多くのステージに立たせていただいておりますが、どんな方法であれ自分を表現することはとても楽しいことです。そういう場があることが、どれだけありがたいことなのか改めて感じることができました。

3組 内田 明依

私は、8月に4日間「キャリアメンタリングプログラム」というものに参加しました。国際交流に関心があり、外国人との交流を持ちたい、国内外に人脈を持ちたいと思い参加を決めました。振り返ると、とても内容が濃く、自分を成長させることができた4日間だったように思います。YA(ヤングアメリカンズ)のワークショップでは、ソロを任されたことで自信が付き、自己表現することができるようになりました。そしてなにより、今までかかわることのなかった人との出会い、新鮮な価値観や生き方を知ることで、逆に自分でも知らなかった自分を教えてもらったような気がします。10月以降の残り3回のプログラムでも、さらに充実した時間を過ごし、忘れられない思い出がつくれればよいなと思います。

